

1. 開会 16:00

2. 市長挨拶

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中お集まりいただき心からお礼申し上げます。本日の議案の中でもご協議いただく予定になっておりますが、令和5年度は第8期の富良野市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画の最終年となっております。従いまして次期の第9期計画、令和6年度から令和8年度の策定を行っていくこととなります。団塊の世代が75歳を迎える2025年問題が次期計画に含まれることとなりますので、更なる企画、工夫、あるいは対策が必要になると思っております。これまでの推移と予測を踏まえながら、高齢者の自立支援や地域での暮らしを守るために重要な役割を担っている地域包括支援センターの業務内容や、運営状況を評価いただき、改善点や課題をより明確にすることが重要と考えております。委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます、開会のあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 会長挨拶

小山内会長：

新型コロナウイルスが5類になりやっと落ち着いてきていますが、北海道では感染者数は連休前より増えています。重症化率は低いですが、新型コロナウイルスに十分に気を付けながら会議をおこなっていきたいと思います。資料にもありますように、高齢化率は間違いなく増えていますけれども、それ以上に2023年くらいから高齢者の数は減ってきています。要するに富良野市全体の人口が減ってきています。市には、もっと人気のある町になるように引き続き取り組みをお願いしたいと思っております。さらに、高齢者にとっても安心して住める町になるよう頑張ってくださいたいと思っております。この会議は、富良野地区の高齢者にとって住みよい町をつくるためにありますので、活発な意見をよろしくお願いいたします。

4. 議事

(1) 令和4年度 富良野市地域包括支援センター事業報告について

① 事業報告

② 収支決算

⇒議案に基づき、事務局より説明 16:15-16:35

(質疑・応答)

草野委員：

相談支援内容の内訳について、「住宅改修に関すること」と「福祉用具に関すること」の件数が少ないように感じる。これは、職員の育休のためケアマネ業務が減ったため減少していると捉えて良いのか、住宅改修や福祉用具の利用に繋がってなくて少ないのか、その辺

りを把握されていたら教えていただきたい。

地域ケア個別会議について、共通点としてキーワードが残っておりこれもわかりやすいとは感じるが、会議のなかで残る地域課題を明確化して残せると良いと感じている。この資料のなかで、残る地域課題を記載し、キーワードがどのように問題だったのかが見えると、実情がわかりやすくて良いと思う。私も会議のなかで、残る地域課題を自分から発信できるように参加したいと思うが、そういった形で残していただくと、地域課題がどう残っているかということが今後に活かしやすいと思うため、ご検討いただきたい。

認知症サポーター養成講座について、昨今のコロナ禍で昨年まで制限されていたため、このくらいの件数が他の圏域と比べて、同数なのか、少ないのか、多いのか、もしわかれば教えていただきたい。

事務局：

住宅改修と福祉用具の件数について説明させていただく。地域包括支援センターでは、介護保険のサービスを何も使っておらず、住宅改修だけをしたい、福祉用具購入だけをしたいという方の相談に対応している。他にも介護保険サービスを使っていて、尚且つ住宅改修も必要という方は、ケアマネジャーがついているため、地域包括支援センターではなく、ケアマネジャーの事業所が対応している。住宅改修の相談件数自体は、大きく減ってはいないため、住宅改修だけではなく、訪問サービスや通所サービス等をうけながら、住宅改修も併せて使っている方が増えてきた印象である。

地域ケア個別会議の資料については、今後お示しするときに、個別の事例で残された課題についてもわかりやすく整理できるよう検討させていただく。

認知症サポーター養成講座については、認知症疾患医療センターがあるようなところでは、要望がなくても毎月のように講座を定期的に開催しており、そういった市町村とは開催数に差がある。富良野市では、コロナ前と比べると開催数や受講者数は若干少なくなっており、令和4年度の開催数は3回だが、コロナ禍と比べ徐々に活発になってきている。地域包括支援センターが出向く認知症サポーター養成講座もあるが、地域の方で自分たちで認知症サポーター養成講座を開きたいという相談も増えてきているところであり、徐々に開催数は増えてきている。他の市町村に比べ多い少ないは顕著ではないという印象を受けている。

(2) 令和5年度 富良野市地域包括支援センター事業計画について

① 事業計画（案）

② 収支予算（案）

⇒議案に基づき、事務局より説明 16：45-16：55

(質疑・応答)

草野委員：

先ほどの事業実績報告の意見と重なるが、地域ケア会議で個別の対応策については検討できているが、残された地域課題をどう解決するかというところが難しいという印象を受けている。本来、ケア推進会議などが地域課題を具体的にどう解決するか検討する場かもしれないが、実際のところ、この場では残された地域課題の具体的な課題対策を立てたり、新しい資源を考えるとという審議は難しいと思うため、例えば、実践の現場レベルの方々に、残された地域課題の対応策を考えるような分化会をつくり、その中で案を出し、その案をこの場を親会として検討するという流れをつくるなど、残された課題に対する検討の実践の場が必要かと思う。ご検討いただきたい。

認知症総合支援事業の認知症サポーター養成講座についての提案だが、コロナが5類になったため、認知症サポーター養成講座をもう少し増やすことができないか。例えば教育機関、学校などで開催できないか。これから人口が減っていくため、支える側の地域の理解が非常に重要になると思う。そういう方々の認知症の理解を深めるという意味で、そういった活動をできないか。ご検討いただきたい。

ふまねっについても、教育機関とコラボできないか。ふまねっ運動に地域の子供と高齢者の交流の場ができると、参加する人が増えることも期待できる。ふまねっ運動を普及する意味でも、そのような取り組みができたかどうか。ふまねっ本部でも子供との取り組みがあったため、そういった活動展開ができれば面白いのではないか。

事務局：

残された地域課題の検討については、地域ケア個別会議を重ねて出てきた課題をまとめ、地域ケア推進会議で報告し、今後の介護保険事業計画を作成するために、今、アンケート調査にも項目としてキーワードを載せている。その結果をもとに、この会議で計画を立てるなかで地域課題の解決方法について議論していくという流れになる。その前段として、分化会のようなものをつくるという提案をいただいたが、関係機関会議や、ケアマネ会議がある。関係機関会議やケアマネ会議のなかで、今のところは半年に1度くらい地域ケア個別会議の経過報告や、こういう個別会議をしてこういった課題があったと報告させていただいている。その場で意見をいただくのは難しいため、今後、関係機関会議やケアマネ会議で報告する際には一歩踏み込んで意見交換できるような場ができれば良いと思うが、ご提案を取り入れて検討していきたい。

認知症サポーター養成講座とふまねっについても、教育機関や教育委員会とのコラボについては、実現できるかも含めて、内部で検討させていただきたい。教育委員会に限らず、地域の理解を深めるという意味で、どのような教材を使っていくかも含めて、ご意見として受け止めて、できることをやっていきたい。

小山内会長：

教育機関とのコラボは良い方法かもしれないため、積極的に考えていただければと思う。

久保委員：

施設入所等・措置に関する相談に関して、寿光園等の措置を行うと書いてあるが、連休前などに家においておけないケースが出た場合、いつも私が耳にするときには空いていないことが多いが、実際に受け入れできるキャパはどの程度か。どこの市町村で、どのような施設と連携して、どのくらいのキャパがあるのか状況を教えていただきたい。

事務局：

養護老人ホームは、道内では旭川、札幌、歌志内、帯広にある。富良野から措置した方が入所しているのは旭川、歌志内、札幌の養護老人ホーム。養護老人ホームで対応できる身体状況の方で、家がなくなった等の理由で緊急的に入所が必要となった場合、対応できるのは、現状では旭川と歌志内の施設。緊急のケースに関してはこの2施設に措置しているケースが多い。旭川は、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が多く、養護老人ホームが定員を割っている状態が続いている。100床あるところ入所しているのは常時90～95床のことが多いため、緊急に対応できるという話をいただいている。順番を待つことが難しく、緊急性を要する場合にはそちらに相談している。

久保委員：

寿光園に関してはどのような状況か。

事務局：

寿光園は現在満室の状態であり、今現在常時30名前後の待機者がいる。通常どおり申し込みをし、順番が来るまでには1年前後かかる状況。

久保委員：

寿光園に関しては緊急対応は難しいのか。

事務局：

緊急で1部屋用意してもらうことはできないことはないが、その時に寿光園と相談しながら対応している。その方の身体状況により養護老人ホームでは難しい場合、他の施設に相談し対応する。

久保委員：

いつどんなことがあっても一つか二つは空けているというイメージであったが、そうでは

ないのか。

事務局：

寿光園に関しては1部屋は必ず空けている。

久保委員：

ゴールデンウィークや年末年始などの連休直前に緊急のケースがでてくるのが過去にあった。そのようなことがあった場合には、また情報をいただきたい。病院が満床で対応できないこともあるため、そのような場合にはご協力いただきたい、

小山内会長：

北の峯ハイツは緊急時の対応は可能か。

福永副会長：

空いていれば対応する。

事務局：

養護老人ホームは、ある程度身の回りのことが自分でできる方が対象の施設であるため、介護が必要な方の場合だと、寿光園では対応が難しいため、介護施設に相談することとなる。

(3) 地域密着型サービスについて

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:05-17:15

(質疑・応答)

草野委員：

地域密着型サービス事業所の事故報告について、どこの事業所も人材不足だと痛感する。介護場面では事故は避けられない部分ではあるが、地域リハビリテーション活動支援事業のなかで、施設の介護職員に対する介護技術指導を行っているため、事業を活用して介護技術の研修などを行い、防げる事故は防ぐことができるよう、地域包括支援センターから地域リハビリテーション活動支援事業の活用をうまく勧めていただければと思う。

小山内会長：

事故報告の20件というのは、圧倒的に少ない数だと思う。ヒヤリハットも含めれば、この件数では済まない。症例を見ていないためわからないが、3b以上が年間20件と考えた場合、厳しい状況である。指導をよろしく願いたい。ケアに関しての勉強会などもある

ため、そのようなものを活用して頑張ってください。1から5まであるが、1、2は報告にのっていないと思われるため、3 b以上が20件だとすると多い。